



阿蘇

再生目標

草原の恵みを持続的に活かせる仕組みを現代に合わせて創り出し、かけがえのない阿蘇の草原を未来に引き継ぐことを目指す。

DATA

エリア：阿蘇くじゅう国立公園（阿蘇地域）

所在地：熊本県阿蘇郡南阿蘇村、小国町、南小国町、産山村、高森町、阿蘇市、山都町の一部（旧蘇陽町）

着 手：H15

阿蘇草原再生協議会

概要：阿蘇の草原の維持、保全および再生を推進するための必要事項を協議。

設立日：H17.12.2

全体構想作成日：H19.3.7

H26.3.13（第2期）

R3.11.25（第3期）

実施計画作成日：

●H21.3.4（野草地）

●H25.3.12（野草地（2期目））

●H23.3.10（草原湿地）

（R4.3現在）



（撮影：大滝典雄）

阿蘇の草原は、東西約 18km、南北約 25km、周囲 100km 以上に及ぶ世界最大級のカルデラ地形の内外に広がっています。この草原は人々が長い間利用することによって成立したものであり、人々が生活や農畜産業のために手を入れることにより維持され、草原景観と多様な動植物が生息・生育する豊かな草原環境が守られてきました。

しかし、農業形態や生活様式の変化などにより、草原維持のための一連の作業を行うことが困難になり、草原面積の減少や荒廃が目立つようになりました。

このため、長い間草原をうまく利用することにより守られてきた草原環境を保全・再生・維持管理し、次世代へ引き継ぐための取り組みを進めています。



ハナシノブ（絶滅危惧 1A 類）

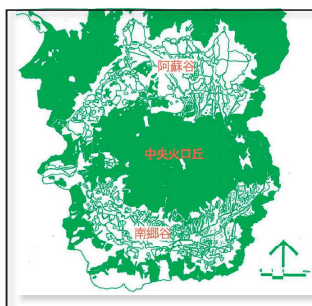


オオルリシジミ（絶滅危惧 I 類）
（撮影：寺崎昭典）

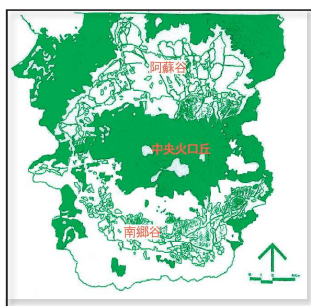


野焼き作業の休止によりヤブ化の進む草原

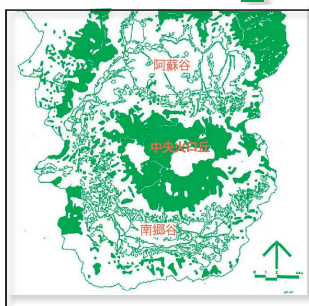
阿蘇の草原面積の変遷



明治・大正期



昭和 20 年代



現代



関連ホームページ

阿蘇草原再生協議会：<http://www.aso-sougen.com/kyougikai/>

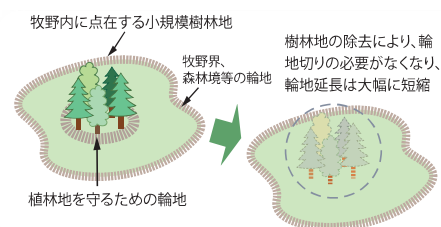
自然再生の手法

- ▶ 草原の牧野利用の維持管理→①
- ▶ 草原環境の保全
- ▶ 草原学習の実施
- ▶ 野草の多様な資源利用の促進
- ▶ 草原の適正な観光利用の検討
- ▶ 草原保全のための支援体制の構築→②③

地域の生業とともに維持されてきた二次的自然である阿蘇の草原を保全・再生していくためには、地元牧野組合等が中心となり行ってきた牧野利用や維持管理作業が継続されていくことが重要です。そのため、野焼き・輪地切りの作業負担軽減のための環境を整備し、ボランティアやNPO等との協働による維持管理の再開に向けた支援を行い、また管理が行き届かず劣化が進む草原環境を修復するなど、生物多様性を回復するための取り組みを行っています。

① 輪地切り（野焼きのための防火帯づくり）省力化のための環境整備

採草・放牧利用の減少とともに草原内での植林が進み、輪地切りの負担が増大したことにより、野焼きの継続が困難な牧野が増えています。野草地保全のために不可欠な野焼きの継続を支援するため、恒久防火帯の整備や、牧野内の小規模点在樹林の除去による輪地延長の短縮など、輪地切り作業の省力化に係る手法の検討・普及を行っています。



小規模点在樹林の除去

② ボランティア団体の支援による野焼き再開

野焼きが中止された草原はヤブ化が進み、景観や生物多様性の劣化に加え、災害の危険性の面からも問題視されています。管理が放棄されている草原において良好な野草地を再生するため、地元住民と支援ボランティア団体との協働による輪地切り・野焼き作業の再開を進めています。また、この実施にあたっては、野焼き再開後の維持管理の継続について関係者間で協定書を交わしています。



輪地切りの作業

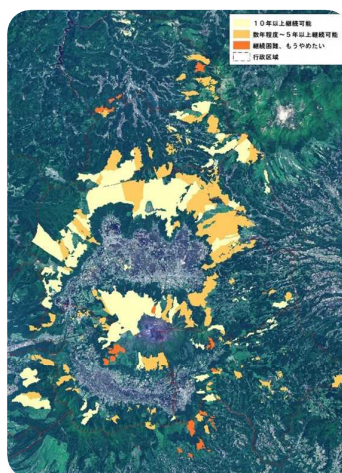


野焼きの実施状況

③ 30年後の目標と今後の取組方針

平成28年度に地元の牧野組合向けに行われた調査において、野焼き等の草原の維持管理に欠かせない作業を「10年以上継続可能」と答えた牧野は、面積で約4割に留まるなど、阿蘇の草原を取り巻く状況は深刻さを増しています。

こうした状況を改善するために、令和3年度策定の第3期全体構想では、「今と変わらない規模の阿蘇草原を残す」ことを、30年後の目標に設定しました。そのために、従来から取り組んできた「生業による草原維持への支援」に加え、草原の有する「公益的な機能を保全するために多様な主体が関わる草原管理」を新たな取り組みの柱として位置づけ、草原再生を推進していきます。



ここに注目！ 農畜産業への支援

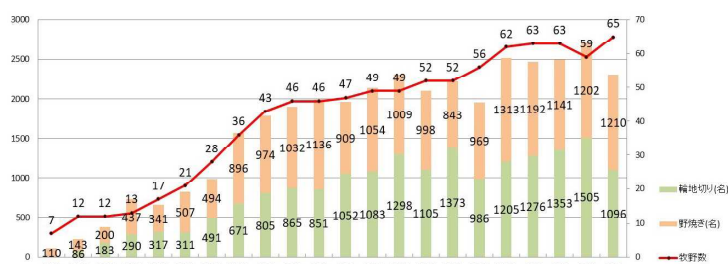
草原は、牛馬の放牧地として利用されるほか、刈り取った草は飼料としても利用されてきました。このような牛馬が利用することで出来上がった環境を維持するためには、生業を継続することが必要不可欠です。そこで、阿蘇を代表する牛である「あか牛」の放牧頭数の拡大を目的とした農畜産業への支援（あか牛導入への助成、牧野管理道の整備等）を行っています。

野焼き・輪地切りの継続意向調査

自然再生事業の効果

協議会の取り組みにより、次のような成果が得られています。（R2年度実績）

- ・協議会構成員の牧野組合等が維持管理する牧野面積：約16,642ha
- ・協議会構成員の牧野組合等による野焼き面積：約12,391ha
- ・作業道整備事業により草原維持管理の作業負担が軽減した牧野組合の面積：約275ha
- ・野焼き・輪地切り等の維持管理作業へのボランティア参加：延べ2,346人・日



輪地切り・野焼きボランティア派遣数・支援牧野数の推移

資料提供：公益財団法人阿蘇グリーンストック